

事業コード	H18-農-新-8		区 分	国庫補助	県単独
事業名	地域用水環境整備事業実施計画費		部局課室名	農林水産部 農山村振興課	
事業種別	かんがい排水		班 名	農村整備計画班 (tel) 018-860-1855	
路線名等	横手市		担当課長名	佐藤 充	
箇所名	平鹿平野		担当者名	佐藤 暢芳	
総合計画との関連	政策コード	T	政策名	潤いとやすらぎを提供する農山漁村空間の創造	
	施策コード	01	施策名	快適で生き生きとした農山漁村づくり	
	指標コード	02	施策目標(指標)名	農業用排水施設整備面積	

1. 事業の概要

事業期間	H19 ~ H25 (7年)		総事業費	37.8億円	国庫補助率	50%	
事業規模	用水路工 L = 20.7km						
事業の立案に至る背景	<p>本地区のかんがい用水は、皆瀬ダム及び成瀬川、皆瀬川ならびに渓流水に依存しているが、湧水等の枯渇や夏期の河川自流量の減少等、恒常的な水不足を生じており、揚水機による地下水利用や番水等の厳しい水管理を行いながら用水不足に対処している。</p> <p>基幹施設の頭首工及び用水路は、昭和21年～同55年の国営雄物川筋土地改良事業で造成されたが、経年変化による老朽化等により劣化が著しく、維持補修や用水確保のための揚水機の運転に多大な労力、費用が投じられている。</p>						
事業目的	国営事業と整合した用水路の改修を行い、農業用水の適期・適量供給を図る。増大している維持管理経費の節減を図り、農家経営の安定に資する。						
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)			全 体	H19 年度	H20 年度	H21 年度	H22 年度以降
	事業費		3,780,000	70,000	630,000	700,000	2,380,000
	経費内訳	工事費	3,385,000		600,000	670,000	2,115,000
		用補費	86,000				86,000
		その他	309,000	70,000	30,000	30,000	179,000
	財源内訳	国庫補助	1,890,000	35,000	315,000	350,000	1,190,000
		県債	850,500	15,750	141,750	157,500	535,500
		その他	945,000	17,500	157,500	175,000	595,000
一般財源		94,500	1,750	15,750	17,500	59,500	
事業内容		用水路工 L = 20.7m	全体実施設計	用水路工 L = 3.0km	用水路工 A = 3.0km	用水路工 L = 14.7km	
調査経緯	<ul style="list-style-type: none"> 平成17年度 基礎調査(調査費5,800千円～県費2,900千円、地元2,900千円) 平成18年度 事業計画策定(調査費8,000千円～県費4,000千円、地元4,000千円) 						
上位計画での位置付け	<ul style="list-style-type: none"> あきた21総合計画 T-1 快適で生き生きとした農山漁村づくりを支援する事業 国営平鹿平野農業水利事業 						
関連プロジェクト等	<ul style="list-style-type: none"> 国営平鹿平野農業水利事業(農林水産省 H13～H27) 県営担い手育成基盤整備事業38地区(秋田県H9～) 特定多目的ダム 成瀬ダム建設事業(国土交通省 H13～H29) 						
事業を取り巻く情勢の変化	<ul style="list-style-type: none"> 米価の低迷、転作の拡大、農産物輸入による国産野菜の価格下落等が進展するなか、多様な消費者ニーズに対応した農産物の供給等が求められており、一層の農業生産コストの縮減を図ると共に、地域の担い手を育成し、地域間競争に耐えうる足腰の強い農業生産体制を構築する必要がある。 						
事業効率把握の手法	指標名	農業用排水施設整備面積					
	指標式	実績面積 ÷ 目標面積					
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 無		
	目標値 a	20,100 ha		データ等の出典	農業農村整備事業調査		
	達成値 b	20,400 ha					
達成率 b/a	101%		把握の時期	平成18年 7月			

2. 所管課の1次評価

観 点	評 価 の 内 容 (特 記 事 項)	評 価 点
必 要 性	○本事業の目的は、国営かんがい排水事業と連携して農業用水の適期・適量供給を図ろうとするものであり、手段に代替性がなく、水稻を基幹作物とする本県農業にとって必要不可欠な生産基盤整備であると判断される。 本計画路線は、農業用水の供給のほか、洪水時の安全な流下や冬期間の消流雪及び近隣居住者の洗い場としても親しまれるなど、多面的な機能を有しており、本計画路線の整備	15点
緊 急 性	漏水や水路底の洗掘による張ブロックの崩壊及びコンクリートの劣化が進行している。このため用水の供給に支障を来しているほか、降雨時は増水し、周辺農地のほか近隣の居住者にも大きな不安を与えており、早急な改善が必要である。 維持管理費が増大傾向にあり、10年前の3倍から6倍となっている。	25点
有 効 性	○横手市が策定する「地域水田農業ビジョン」において「水田農業を支える農業用水の確保と作目に応じた水管理の適正を図るため、農業水利施設の適切な整備・更新と維持管理の体制づくりを推進している。 現在の整備補修費は大半が水路の漏水防止対策や崩落防止対策であり	25点
効 率 性	○本事業のほか関連事業と相乗して単収増加効果、品質向上効果、営農経費節減効果、維持管理費節減効果、更新効果等の他、多種多様な効果が見込まれる。 投資効率 1.22	15点
熟 度	「平鹿平野土地改良事業検討委員会」が組織されており、事業化への意欲は極めて高い。 平成16年8月26日付けで河川管理者から、増加取水に関する水利権の行使が認められており、地元関係者は用水施設の整備を待っている状態である。	18点
判 定	ランク () 農業基盤の核となる農業用水確保のため、地域関係者一丸となった各種取組は、同じような問題を抱える地域の模範となるものであり、事業の必要性・緊急性・熟度などの項目でも評価点は高い。	98点
総 合 評 価	選定 改善して選定 保留 横手市全域を流下する本路線は農業面だけではなく、生態系や地域用水等の多面的機能を持つ癒しの空間となっており、この施設の地域に与える影響は大である。また国営事業との進捗をにらみながら効果的な事業の取組が必要である。	

3. 総合政策課長の2次評価

総合評価	選定	改善して選定	保留
<p>当地域は、かんがい用排水路は整備されているものの恒常的な水不足を生じており、厳しい水管理を強いられている。成瀬ダムに新たな水源を求めた国営かんがい排水事業に付帯する本事業の実施により、地区内の用水不足が解消される見込みであり、事業実施は妥当と判断される。また国営事業の完成年度にあわせた着工は、時期的にも適切であると考え。</p>			

4. 財政課長意見

意見内容	選定	改善して選定	保留
<p>・平鹿平野地区の恒常的な水不足対策 ・国営の成瀬ダム建設、かんがい排水事業関連 国営かん排事業と時期を合わせて完了すべき事業であり緊急性も高いことから、事業実施は妥当と考える。 ただし、コスト縮減に努めるとともに、予算の枠内配分の範囲内での実施を厳守すること。</p>			

5. 最終評価(新規箇所選定会議)

総合評価	選定	改善して選定	保留
<p>事業の実施は妥当である。</p>			

6. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

<ul style="list-style-type: none"> ・当該課所を国に新規地区として要望する。 ・事業実施に当たっては、コスト縮減に努める。
--

7. 公共事業評価専門委員会意見

<p>県の評価及び対応方針を可とする</p>

評価種別 新規箇所評価
適用基準名 かんがい排水事業

事業コード(H18-農-新-8)
箇所名 (平鹿平野)

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	事業の必要性 あきた21総合計画における位置づけ	施策目標の中核事業であり貢献度が高い	5	5	
		施策目標に間接的に貢献する	3		
	施策目標とは別のその他関連事業である	1			
	手段の妥当性 手段には代替性がなく、妥当である	5			
	他の手段と比較検討する余地がある	0			
地域用水機能 地域用水機能を有する	5	5			
地域用水機能として間接的に関与している	3				
地域用水機能を有しない	0				
	計		15	15	
緊急性	事業未実施の影響 現況施設の状況	漏水、崩落等があり、施設の機能低下が著しい	5	5	
		漏水、崩落等があり、施設の機能がやや低下している	3		
		漏水、崩落等があるが、施設の機能は維持されている	1		
	営農への支障状況	用水不足や排水不良が全域で見られ、支障をきたしている	5	5	
	用水不足や排水不良が一部区域で見られ、支障をきたしている	3			
	営農への支障は特にない	0			
	応急対策の実施状況	施設の老朽化により応急対策は日常化している	5	5	
	これまでに応急対策を実施したことがある	3			
	応急対策を実施したことはない	0			
	周辺への影響	事業効果や効率性、周辺への影響等が大きい	5	5	
事業効果や効率性、周辺への影響等が小さい	3				
事業効果や効率性、周辺への影響等はない	0				
他事業との関連 他事業との関連	関連する他事業との調整で緊急性が高い	5	5		
関連する他事業との調整が事業期間中に必要	3				
関連する他事業との調整を必要としない	0				
	計		25	25	
有効性	上位計画への貢献度 市町村計画での位置付け	農業振興の中核を担う施策として位置づけられている	5	5	
		農業振興を担う施策に間接的に位置づけられている	3		
		特に位置づけられていない	0		
	期待される具体的効果 農業生産の向上	干害、水害等の被害防止や立地条件の好転により、収量が増加する	5	5	
		干害、水害等の被害防止により、単位面積当たり収量が維持される	3		
	農業経営の向上	施設の改修、廃止で維持管理労力、補修費用等の縮減される	5	5	
		施設の改修、廃止で維持管理労力、補修費用等がやや縮減される	3		
	生産基盤の保全	旧施設の機能が減退、喪失することなく、その効果が発揮される	5	5	
旧施設の機能が減退、喪失するが、その影響の度合いは小さい		3			
環境との調和への配慮状況 環境保全への配慮	環境検討委員会を設置、環境保全への取組が十分	5	5		
環境検討委員会を設置、環境保全への配慮を検討中	3				
環境検討委員会が設置されていない	0				
	計		25	25	
効率性	事業の投資効果 費用対効果	B / C = 1.2 以上	5	5	
		B / C = 1.0 以上 ~ 1.2 未満	3		
		B / C = 1.0 未満	0		
	事業実施コストの縮減 コスト縮減計画	コスト縮減計画を策定、事業計画に反映	5	5	
		コスト縮減計画を策定するため、現在検討中	3		
コスト縮減計画を特に検討していない		0			
水利施設状況 整備状況	受益地における用排水施設がほぼ整備済みである	5	5		
	受益地における用排水施設の一部を当該事業で整備する必要がある	3			
	受益地における用排水施設の大半を当該事業で整備する必要がある	1			
	計		15	15	
熟度	地元との合意形成の状況 同意状況	全員の同意が得られている	5	3	
		未同意者が存在するが、事業実施に支障がない	3		
		未同意者が存在し、円滑な事業実施に支障がある	0		
	事業推進体制	事業推進組織が設立済で、活発な活動を展開	5	5	
		事業推進組織が設立済、定期的に開催	3		
		事業推進組織が設立されていない	0		
	維持管理体制	管理者、受益者が確定済みである	5	5	
協議中であるが合意が得られる見込みである		3			
協議中であるものの合意時期が未定である		1			
事業推進のための各種協議の進捗状況 進捗状況(水利権、道路協議 林地開発、指定区域等)	必要な協議を終了しており、基本的事項が確認されている	5	5		
	協議中であり、合意が得られる見込みである	3			
	協議中であり、合意時期が未定である	1			
	計		20	18	
合計			100	98	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上		
	優先度が高い	60点以上 ~ 80点未満		
	優先度が低い	60点未満		